

1 学校教育目標

・かしこい子 ・思いやりのある子 ・たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる本木小」(キャッチフレーズ、合言葉) ・子どもが主役となり、学ぶ喜びを実感できる学校 ・誰もが居心地のよい安心安全な学校 ・保護者や地域から信頼される学校
○児童・生徒像	・自分も人も大切にする子(自己肯定感、コミュニケーション能力) ・自分で考え行動する子(主体性) ・自分の言葉で表現する子(表現力) ・チャレンジする子(向上心、忍耐力)
○教師像	・児童の模範となる教師 ・組織で協働して働く教師 ・保護者・地域から信頼される教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・児童は明るく素直である。落ち着いた中にも活気のある姿が多く見られるが、自尊感情が低い傾向がある。
- ・教職員は、若手教員が多い中、よりよい学校を創っていこうと日々一生懸命努力しており、授業力の向上にも力を注いでいる。
- ・保護者・地域も学校に期待を寄せており、教育活動に協力的である。生活習慣や家庭学習などの定着に向けて、さらに連携を深めていく。

【前年度の成果】

- ・学校評価の「確かな学力の定着」に関する3項目について、児童・保護者ともに約85%以上が「よくできている」または「ほぼできている」という結果であり、一定の評価は得られたと考える。今後も教師の授業力向上を図っていく。また、全校朝会等、全児童が集まる時は、時間通りに集まり、静かに人の話を聞くことができている。学校生活を送るための「本木5つの約束(学習・生活)」は浸透してきている。
- ・様々な場面で「成長は変化 ライバルは昨日の自分である」ことを伝え、自分の成長を意識させるようにしてきた。計算コンクールや「体力アップ記録カード」の取組など、児童の成長の「見える化」をすすめ、自分の成長を実感させることに努めてきた。
- ・東京都教育委員会人権尊重教育推進校として研究授業を(7本)行った。11月には研究発表会を開催し、成果と課題を確認することができた。
- ・1.2年 hyper-QU、3～6年 WEBQU を年に2回実施。SCによる5.6年生全児童面談の実施。週1回の教育相談委員会(管理職・養護教諭・専科・特別支援教室専門員等)実施。学校全体で、配慮すべき児童を確認し、支援していく体制をさらに整えてきた。学級生活満足群は57.1%(全国平均42.5%)
- ・R2年度より、本校の児童の課題である、長座体前屈(柔軟性)、ソフトボール投げ(投力)、シャトルラン(持久力)の記録(平均)を、年に2回とっている。持久力の向上が認められた。持久力をあげる「本木ランランラン」の取組が効果的であった。
- ・学校評価「学校・家庭・地域の連携」における満足度は90%であった。PTA主催による「本木ふえすた2023」、図書ボランティアによる「読み聞かせ」、校外学習などで、地域・保護者の方々との関わりを多くもつことができた。

【前年度の課題】	
確かな学力の定着	・児童自ら、「自分の成長」を感じられるような指導・授業を行う。 ・児童自ら、つまずきをのりこえられるような指導・授業を行う。
思いやりのある子の育成	・児童が安心できる環境（心・場・時）に整える。 ・一人一人の教師が自らの人権感覚を磨き、人権意識を高めていく。
たくましい子の育成	・複数の教員で児童を指導し、児童を多面的に理解する。 ・児童が健康でたくましく成長できるよう、体力向上の取組を強化する。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度）			R:令和	
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン 確かな学力の定着	◎	◎	◎	◎	◎
2	思いやりのある子の育成	◎	◎	◎	◎	◎
3	たくましい子の育成	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
子どもが主役となり、学ぶ喜びを実感できる授業の実現		2教科とも通過率75%以上		通過率66.1%(国67.6%算64.6%)		目標達成・学習の定着状況等は、6(1)を参照		△	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継続	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	「足立スタンダード」を基にした授業改善	○全学年 ○全教科	通年	・授業力向上の研修計画 (板書計画の重視) ・教科担任制・専科副担任制の実施	・研究授業8回実施 ・校内公開授業1人2回	・全ての研究授業の実施 ・公開授業1人2回以上実施	・研究授業1月までに8回達成 ・校内公開授業12月までに2回以上達成	・研修10回以上達成 ・教科担任制(3～6年)や学年交換授業(1～2年)が効果的に実施された。	◎

2 継続	基礎・基本 の定着「読 み・書き・ 計算」	○全教科	通年	・計算コンクールの実施 ・視写 ・調べる学習コンクール全員参加	・毎月実施 ・火曜日朝実施 ・年1回	・個々の記録向上 ・書く力の向上 ・全員提出	・計算コンクールは個々の成長の伸びに着目し、表彰することで、児童の意欲も増した。	・朝学習の時間、視写に取り組むことで、朝のスタートが落ち着いて始まる。	○
3 新規	ぐんぐん タイム	○全教科	通年	・毎週木曜日の放課後に、全教員が参加し補習学習を実施	・年間各学年35回以上実施	・校内単元テスト平均正答率85%以上 ・区調査予備調査通過率75%以上	・校内単元テスト平均正答率76.8% ・区調査予備調査通過率66.1%	・単元テストは、学年での算数の差がかなりあった。学年ごとに課題を更に細分化する必要がある。	△
4 継続	読解力向 上タイム	○国語	通年	・水曜5校時 全校で読解力向上タイムを実施	・各学級年間35回以上実施			・通年水曜日で指導を行っていたが、行事等でカットされることも多かった。	△
5 継続	AI ドリル の積極的 活用	○国語・ 算数を 中心	通年	・キュビナのワークブックを活用した宿題・自主学習	・取組の記録	・1人平均毎日10問以上	・1人平均11問取り組むことができた。	・キュビナ強化週間の取組が効果的だった。	○

重点的な取組事項－２		思いやりのある子の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
誰もが居心地のよい安心安全な学校		・hyperQU・WEBQU の要支援群等の児童や学級生活満足度尺度の改善 ・自己肯定感の向上(前年度等の比較)	・学校全体の学級生活満足度は、全国平均値を上回った。 ・自己肯定感、前年度より向上	・全国平均値を下回っている学年もあったが、２回目の調査では向上した。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①人権教育の取組	・研究授業 8 回	・人権尊重教育推進校発表会に向けて、研究授業の充実 ・人権集会（年 5 回）、人権の花運動、人権メッセージ、人権ポスター	・研究授業 8 回実施達成 ・人権集会（年 5 回）、人権の花運動、人権メッセージ、人権ポスターも実施達成	・児童の自己肯定感の高まりが認められた。	◎
②本木・本気プロジェクト	・学年で 1 本以上 ・発表の場を設定（互いの活動を伝え合い、認め合い、高め合う）	・学年が一体となつての取組 ・取組を発表する場の設定（児童自らが、学校生活をよりよくしていると実感できるような取組とする）	・計画的に、各学年の取組が発表され、児童の自己肯定感や達成感につながったことを実感することができた。	・3 年目の取組となり、内容がさらに充実してきた。	○
③自己肯定感の向上	・WEBQU・hyper-QU を全学年 2 回実施。要支援群等の児童等の状況改善。親和的な学級の増加 ・年 4 回以上の「俳句創作」実施	・分析と改善計画 ・年 4 回、季節毎に創作し、感性・語彙力を磨き、豊かな心を育む（コンクール等にも参加）	・全学年 2 回実施。学校全体の学級生活満足度は、全国平均値を上回った。 ・年 4 回の俳句創作実施達成 ・俳句創作において、意欲的に取り組む児童が増加した。	・全国平均値を下回っている学年もあったが、２回目の調査では向上した。	○
④特別支援教育、教育相談の充実	・保護者アンケート（心を豊かにする指導）より、80%以上が肯定的回答	・校内委員会での情報共有と改善確認（毎週金曜日） ・生活指導夕会での情報共有と改善周知（毎週月曜日） ・特別支援教育に関する教員の専門性向上 ・ユニバーサルデザインの推進（学校全体）	・校内委員会や生活指導夕会を計画的に実施して情報共有と改善策を確認した。 ・保護者アンケート（心を豊かにする指導）より、90%以上の肯定的回答を得ることができた。	・校内委員会で得られた児童の情報が確実に翌週の生活指導夕会で共有され、細やかな対応に結びついている。	◎

重点的な取組事項－３		たくましい子の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
規則正しい生活と体力・運動機能の向上		R5 年度以前と比較し、 R6 年度に改善あり	・経年変化で改善傾向あり	・全校での取組効果高	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
①規律正しい学校生活の徹底	・児童アンケートにより、90%以上が肯定的回答	・定期的なアンケート実施（年3回以上）	・児童アンケートにより、90%以上が肯定的回答をした。	・きまりを教室に掲示し、朝の会や帰りの会で自己評価してきたことで児童の意識が高まってきた。	◎
②健康・体力向上	・毎回の体育の授業で課題を解決するための運動の実施と運動量の確保 ・都や本校の体力調査の記録等と比較平均値の上昇	・「体力アップ記録カード」を活用し年2回記録を実施 ・研修にて、教員が課題（柔軟性・持久力・投力）改善のための運動を習得し、授業で継続的な取組	・シャトルランとソフトボール投げは、ほとんどの学年で記録が向上した。	・持久力向上のための取組「本木ランラン」が効果を発揮した。	○
③保健指導・食育指導の充実	・生活習慣アンケートをとり、R5 年度と比較し改善	・「生活リズムカード」等の実施 ・養護教諭や栄養士と連携した保健指導や食育指導の充実 ・保護者会や各種便り等を活用し、保護者への啓発	・生活習慣を確認するためのアンケートをとり、児童に指導したり、保護者に家庭での過ごし方の提起を行ったりすることで、健康への意識を高めていくことができた。	・情報の発信では、99%の肯定的回答を得た。様々なツールを活用して保護者への啓発をさらに行的っていく。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

＜学力向上アクションプランについて＞

【課題】国語・漢字・語句・ローマ字等の読み書き、辞書の使い方などの知識を必要とする問題に課題がある。

- ・文学的文章や説明的文章における内容を読み取る学力の定着が不十分である。

算数・どの学年においても、グラフの読み取りに課題がある。

- ・計算問題で間違えている児童が、学年が上がるごとに増えている。特に5年生の小数のわり算は正答率が54.8%と低く、筆算の手順を忘れている児童が多い。

【対策】国語・朝の時間の活用し、AIドリル・漢字ドリル、読書などに取り組ませる。

- ・読書活動が授業だけでなく、校外の時間にも広がっていくよう、読書の推進を図る。
- ・ぐんぐんタイム（毎週木曜日の放課後に実施する補習学習）では、算数だけではなく国語の課題についても実施し、全教員が参加して個別の指導にあたる。

算数・各学年で身に付けるべき計算について、「自力解決タイム」や家庭学習の時間を使って、難度を段階的に考えた計算問題（AIドリルを含む）に徹底して取り組ませる。

- ・算数の学習を習熟度別に行う。基礎グループの人数を減らすなど、学力が定着していない児童に対して、より丁寧な指導を行う。
- ・毎月1回以上、計算コンクールを実施し、児童が自ら自分の目標に向かって頑張ろうとする意欲をもたせる。

【今年度の成果】

- ・「人権教育推進」に関するアンケートでは、児童・保護者ともに90%を超える肯定的評価を得ることができた。今年度は東京都教育委員会人権尊重教育推進校として11月に研究発表会を開催する。
- ・「学習規律や生活規律の徹底」については、児童・保護者ともに90%を超える肯定的評価を得ることができた。「本木5つの約束（学習・生活）」とともに、「あいさつ名人」と「聞き方名人」の取組を徹底させていく。

【次年度に向けた課題及び解決の方向性】

- ・国語や算数を中心とした「基礎学力の定着」が課題である。授業力のさらなる改善とともに、朝学習の計算コンクールや放課後学習のぐんぐんタイム、九九検定チャレンジ、AIドリル強化週間の取組等により、基礎学力の定着を図る。
- ・特別支援教育と教育相談のさらなる充実を図っていく。学校全体で、「授業・教室環境・人的環境のユニバーサルデザイン化」を推進し、誰もが居心地のよい集団づくりを行う。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

「情報の発信」については、保護者・地域から99%の肯定的な評価を得ることができました。200回以上更新した校長ブログは、学校の考えや児童の様子を伝える上で大変効果的であったので今後も継続していきます。

(3) その他（学校教育活動全般について）

すべては、子どもたちの「今」と「未来」の幸せのために、今後も「笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる本木小」をスローガンとして、教育活動を推進してまいります。